

天水中学校区学校再編等意見交換会（玉水小学校区）要旨

H31. 2. 12（火）19時30分～21時37分 天水町公民館多目的ホール

地域住民 47名

森教育委員、吉村教育委員、笠教育委員

池田教育長、戸寄教育部長、島崎教育総務課長、桑本教育審議員

柳井指導主事、二階堂教育政策係長、東田主査、桑本主事、大磯参事

合計 59名

二階堂係長 皆様こんばんは、本日は大変お忙しい中、ご出席頂きありがとうございます。会の開催に先立ちまして、この会議の議事録を作成いたしますので会議を録音させていただきます。議事録作成につきまして、個人の名前は記録には残しませんので、よろしくお願ひします。本日の会は1時間半程度を予定しております。

それでは、天水中学校区 学校再編等意見交換会を始めさせていただきます。では、次第2 玉名市教育委員会を代表いたしまして、池田教育長よりご挨拶申し上げます。

ー 2 教育長あいさつー

池田教育長 皆さん、こんばんは。本日は、ご多用な中、お集まりいただき、ありがとうございます。教育長の池田でございます。よろしくお願ひいたします。

さて、ご存知の方も多いたと思いますが、これまで玉名市教育委員会では、平成24年に「玉名市学校規模・配置適正化基本計画」を策定し、集団で学ぶ児童・生徒の教育効果をより高めることを基本に据えた学級規模、学校規模の適正化に取り組んでおります。

その最初の成果といたしまして、平成30年4月に玉陵中学校区の6つの小学校が統合し、小学校と中学校の校舎が渡り廊下でつながった、新しい形態である施設一体型の玉陵小学校が誕生いたしました。

また、ここ天水中学校区におきましては、平成27年～28年度にかけて地域ごとに説明会を開催いたしましたが、その際は、将来的な再編の必要性について十分にご理解を得ることはできませんでした。

その後、平成30年2月に、天水中学校区の3つの小学校の保護者の皆様が中心となり、「学校再編についての保護者向けアンケート」が実施され、教育委員会といたしましては、そのアンケートの結果等も踏まえ、小学校の保護者、未就学児の保護者の皆様のご意見を直接お伺いしたいと考え、昨年7月から意見交換会を重ねてまいったところでございます。

このような話し合いを重ねていく中で、これから子どもたちを入学させようとしておられる未就学児の保護者、並びに小天東小学校の保護者の皆様から早期の統合を望む声が出されました。

さらに、小天東小学校区の地域の皆様と、12月17日になりますが、話し合いを行いましたところ、保護者や地域の皆様のご意見といたしまして、「子ど

もたちのために、まずは小天小との早急な統合を望む。」という総意をいただきました。

それを受けまして、先月1月17日に小天小学校区の地域の皆様と話し合いを行い、小天小と小天東小との統合については、地域の大方の同意を得られたと考えているところでございます。またそれと同時に、両地域からは、玉水小も含めた3校の統合についても進めてほしいということでございました。

本日は、これまでの経緯とともに、意見交換会でいただいた様々なご意見をご報告し、玉水小学校区の皆様方の率直なご意見をお伺いしたいと思っております。

これからの子どもたちの、より望ましい教育の実現に向けた有意義な会にしてまいりたいと考えておりますので、最後までよろしく願いいたします。

二階堂係長 本日は玉名市教育委員の笠委員、吉村委員、森委員様にもご出席をいただいております。また、教育委員会事務局の紹介をさせていただきます。

－職員自己紹介－

続きまして、次第3と4をまとめて事務局の方からご説明いたします。

－ 3 天水中学校区学校再編の取組みについて－

事務局より説明

－ 4 小天東小学校と小天小学校の統合等について－

事務局より説明

－ 5 意見交換－ (19時55分～)

地域の方 今長々と教育委員会の方から説明がありました。私も時間をもらって話をしたいと思います。まず感じたことは、どこかのスーパーのセールみたいに、あと30分ですよ、今だったら安いですよ、あと15分ですよと、そんなに時間をせまってやるものじゃありませんよということを、話をしておきます。玉水校区はこういった統廃合の話が出た時に、地元の学校でもあり、非常に地域に密着をして、自然災害に強い学校ということで、やはりいい学校は残したいねということで運動を始めました。当時の区長さんが今日は来られています。玉水校区の全部の区長さん、それからPTA役員の方の賛同を得て、当時の議員さん方にも、玉水校区を存続させることについては賛同を得ました。当時の小天東の議員さんの話をしますけれども、小天東が地元ですが非常に自慢をされました。私もよく分かります。東小は人数は少ないけれども、学力も体力もあり、非常に自慢だと。それから学校行事の時、スポーツだったら相撲や駅伝とか、地区の人が集まって一体となって盛り上げていく、そういう学校なんですよ。そういう話を聞いて、やはり自慢したくなる学校なんだろうなというように私は思っていました。ただ、いい学校なんだけれども残念ながら人数が少ないので、このままずっとというわけにはいかないだろうという話をされていま

した。玉水のことについては非常に賛同を得て、私も心強く、署名活動をして、校区内約7割ぐらいの賛同を得ております。その中で玉名市議会に請願として持っていったんですけども、皆さん、請願とか全会一致とか言う言葉ができてきますけれども、その意味を簡単に聞きたいと思います。

地域の方 請願というのは、皆様の意見を持っていくわけなんですけど、しかしそこにはちゃんとした形で議員とか、またそういう人たちの意見をちゃんと踏まえた上で、これだったら請願する理由があるなと、価値があるなというようなことで議会に取り上げてもらうようなことだと思っております。その当時は共産党の方も公明党の方も色んな方がおられるんですけど、全会一致で、まだまだ玉水小学校は元気だし、津波や熊本地震がありましたように、ああいうところは無くしたらいかんという、玉名を愛する議員の集まりでしたので、そこは全会一致で決まったと思います。よろしくお願ひします。

地域の方 そういう経緯があります。その中でですね、小学校の保護者会でアンケートを取ったという話がありました。私もそういう動きがあったということは知ってましたけれども、その結果を聞くよりも、どういう内容でアンケートを取ったのかというのが気になってですね。私はそれをずっと進めていた各小の、実際は小天小のPTA会長がメインで進めていたんですけども、どういう形で進めたんですかということで、約2時間くらい色んな話をしました。その気持ちは同じ天水で分からんでもないなと思ったんですけども、ただその中のアンケートの表書きの中に、ちょっとこれは非常に誤解を与えるなということがあったので、ここで話をしておきます。その中では、玉水小の方で署名活動がありましたという一文で、その結果どうなったのかということはまったく入ってません。それと玉陵小学校が開校されますと書いてあったが、じゃあどういう経緯でまったく問題なく開校に至ったかどうかということは全くありません。玉陵校区の場合は、これが発端なんですけど、私はその辺の経緯については詳しく議員さんの方から話を聞きました。非常にやり方としては粗い。今でもそれに、なんだこのやり方ということで憤っている人たちがいることは事実なんです。そういう形を十分に記載しないままに、ただ開校されますと。それともう1つ。天水中校区の中ではこの統廃合の話はまったく進展していないということだったんですけども、そうじゃなくて、これは色んな事が行われています。ただ、それともう1つ、じゃあ進展していないと言うけれども、他の校区についても計画はあがっているんですよ。池田さんが目の前にいますけれども、玉南校区、これも本来はもう2年経っていて進めないといけない。その後今度は島崎さんがいる有明校区。これも（計画に）あがってますよね。そういうのは全然できてないんですよ。私はだからこういった話を、私がいつも言っているのは、正しい情報を出してください。正確な情報を出してください。それをいつも言ってるんですよ。そういった意味で話をしないと、どっかに誘導しているような形、早くしないと間に合わないですよとかね、そういうのはちょっと

ずれてると思います。それから、この統廃合については、文科省が、インターネットで見ればいいんですけども、約50頁くらい資料を出しています。この中で統廃合を進める地区もあれば、その限りではないですよということもキチッと文章に載ってます。その中で、大きい学校のいいところもあるし、小さい学校のいいところもある。それから地域の実情もある。そういった部分を十分考慮して進めてくださいということを書いてあるんですよ。小学校統廃合というのはずっと後世に残る部分だから、キチとした情報を出して丁寧な話し合いをしていかないと私は非常にまずいと思います。それからその中で、さっき熊本地震の話がありましたけれども、自然災害が最近多いじゃないですか。大雨もある、台風もある、地震もある。そういった時に子どもたちを預ける場所はこういったところがいいのか。やっぱり色んなところにリスクはあるかもしれないけれども、リスクの低いところに小学校というのは立地していきやいかん、というのを私は考えています。あともう1つで終わりますけれども、これは玉名市の話で色んな情報が出てますけれども、私は玉名郡、玉東町、南関町、長洲町、和水町の教育委員会を尋ねて色々話をしてきました。和水の方は菊水の方が、江田小学校、中央小学校というのが地域の中でも非常に大きい小学校があるんですけども、その中で3つの小規模な学校があります。じゃあ小学校は統合しようかどうしようかという話がH17年に出て、最終的にはもう20人、30人だから統合するかと丁寧な話を何回も何回も繰り返して15年かかって統合に至っております。だから小中一貫教育、中央小と菊水中は離れています。それでやる。ただ、3つの小学校が各村にそれぞれあって、それがやはり地域を大事にして、やはり残そうとそういう動きがあって流れとしてはきている。だから非常に丁寧な説明をして、何回も何回もやっている。あと、南関もですね、4つ村があってできています。70人、80人の児童数ですよ。ここは統合の計画がありましたということで、昔も今も（計画は）あります。なぜ（統合）ないんですかと聞いたところ、村には地域には学校が必要だと、そういう話。それから玉東に行きました。山北と木葉です。山北小は100人、木葉小は200人、倍です。どうですかと聞いたら、残しますと。今もこれからも（統合は）ありません。山北、木葉は、学校・役場・中学校が両方にバランスよく配置されているんですよ。これは南関なんか一緒にですね。どっかに集まるわけではなくて、地域の中にバランスよく残っている。それが非常に大事なんです。長洲の方は小さい学校といっても90人ぐらいいて、後は大きい学校ですけども、やはり残しますという話でした。だから私を感じたのは、地域は学校が必要なんだと、地域の人たちが箱をコミュニティをしっかりと守って、そして町を盛り上げていく。そういうものを強く感じました。で、玉名の中の小さいコップの中の話なんですけれども、もう一度大きい部分で議論ができると思って話させてもらいました。以上です。

—拍手—

島崎課長 ありがとうございます。こちらの方から1つ、今のお話の中で、ご報告をい

たします。あと30分で時間を区切った統合はおかしいということや、早くしないと間に合わないというようなことを言って統合をさせるのはおかしいとか、文部科学省の方も強制ではないんだよということを書いてあるんじゃないかというようなことであったり、他の市町村の事例もお話いただきました。前提条件として、今までの意見交換会の中でも、教育委員会としてお知らせしてきましたが、教育委員会からいついつまでにしなさいということは申ししておりません。少なくとも今回の意見交換会でのお話の主といたしましては、それぞれの地域の大方、全員というのはなかなか難しいと思いますので、地域の方々の大方の同意が得た上で統合の話をさせていただきますと常々お話をさせていただいているところです。先ほど述べられたことも、地域に住んでいらっしゃる方としてのご意見かなと思います。まさに今回はそれぞれの方々の思いをいっぱい聞かせていただいて、地域としては大方どっちの方向がいいかと、子どもたちのことを考えたらどっちの方向がいいんだろうということの判断をお願いしたいと思っております。ただし、教育委員会といたしましては、学校規模の配置適正化計画については、教育委員会として、子どもたちの教育のためにはどうしたらいいんだろうかということを中心に計画を出しておりますので、教育委員会としての基本的な考え方を皆様にお知らせするのは当然であろうと思っておりますし、先ほど述べました小天、小天東小の結果も皆様方にお知らせをすべきであると、天水という1つの行政体で元々ございましたので、その必要もあると。それと、もし統合をしようとなった場合には、学校を新しく作る場合に限るんですけども、作らない場合にも、これも私たち教育委員会としても決めているわけではございません。理想としては玉陵小中学校と同様に、同一敷地内にできればより充実した教育もできるというお話もさせていただきながら、一番皆様方にしていただきたいのは、もしも建設位置とかも話し合いを始めるのであれば、話し合いを始めてやはり5年くらいはかかるということは皆様方に分かっていたきたいと、もう間に合わないとなった場合にもそれから5年はかかりますので、小天東、小天でも説明をさせていただきました。最後になりますが、今言われたことも、なるほどなと思うところも当然ございます。今日はぜひ教育委員会とのやり取りだけではなくて、それぞれの方々の思いも含めて、教育委員会の思いも意見を交換させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。あくまで地域の大方の同意を得たという前提で進めさせていただきたいと思っております。長くなりまして申し訳ありません。

地域の方

何年か前に署名された時の区長をしておりましたので、今非常に反省しております。署名したことに対してですね。早く進むようなことはないという話ですが、もう計画からいつ何年も経っている話だし、既に何年か後には人がいなくなるという事例があるわけですよ。今やってもすぐにはできないんだから、今のうちから計画して進めないで間に合わないと思います。それだけ時間かけてやっていると思っています。それから地域地域と言いますが、地域じゃ

なくてまず子どものことを考えた方がいいんじゃないかと思います。どこだつて、世の中というのは、合併もあったし、色んな統廃合というのはあります。歴史的に言っても。玉名市とだつて合併しているわけですけども、そして1つの学校になっています。こういうことはあたりまえなんですよ。人がいなくなっていけば、子どもたちが一番困るわけですよ。何もクラブ活動もできないし、競争することが必要かどうかは別としても、そういったこともできない、子どもたちのことを考えたら早くやった方がいいと思います。年寄りが地域のためになんか言っても、もうそういう時代じゃないんですよ。まず子どもを先に考えて、その後年寄り自分たちで年寄りだけのコミュニティを作っていく努力をしていく。

地域の方 先ほど急ぐ問題じゃないというふうにおっしゃってたんですが、子ども1人1人にとっては小学校に通えるのは6年しかないんで、すごく貴重な6年間をどこで過ごすかというのは大事な問題で、今年決まったとしても5年以上はかかるという時点で、うちの子どもがぴかぴかの校舎で勉強できることはもうないんだろうなと、残念だなと感じました。玉陵に綺麗な新しい小学校ができたから、家を建てる先をそちらの方にして場所を決めたという話も聞いたことがあるのだが、玉陵小で入学予定者が合併後に増えたとかそういうことはないのかなと。綺麗な校舎ができて、お友達が増えるような機会があればいいんじゃないかなと思うのですけれども。

島崎課長 正直なところ、校舎が綺麗になったから入学予定者が増えたとかはっきりした統計はございません。ただ、1つだけ直接お問い合わせがあったのが、和水の方から和水に住んでいるけれども玉陵小に通いたいんですがというお問い合わせは1件だけありました。ただ、住所要件がございますので、そのへんは丁寧に説明をさせていただいたところです。ただ、つい最近、これは入学者とは直接関係ないかもしれないんですが、新駅ができたりということもあるのかもしれないんですが、周辺地域で10軒以上新しい家が建ち始めたよというような情報はきていますけれども、玉陵小に通わせるためということ聞いておりませんのでお答えにならないかもしれませんが、はっきりとした根拠は持ち合わせておりません。申し訳ありません。

地域の方 統合の話聞いたのは、長女が保育園の頃だったかと思います。その時の感想としては、よかったと、入学の時は新しい、人もいっぱいいる校舎でバス通いかどうか分からないが、できるのかなと思っていたところです。平成28年に請願が出たということでしたけれども、実は自分も署名をしています。その時区長さん？も回ってこられて、なんさんこれに名前を書いてくれと言われ。玉水小を残したいか残したくないかと言われたら、やはり母校ですので、自分も6年間通った小学校ですし、残したいなあという気持ちでその時は署名をしました。ただ、議会に提出されてこういうことになるとは夢にも思っていなかつ

た。先ほどおっしゃられた方もいらっしゃいましたが、自分もちょっと考えなければいかんかったなあと、もうちょっとつっこんで、来られた方に聞くべきだったというふうに思っているところです。実際自分の子どもが小学校に通いだして、一番に思うことはPTA活動をしたり、運動会に行ったりすると、自分の時からは考えられないなという寂しさがあると共に、一抹の不安も感じたりします。今日は小学校の校長先生もお出でですけれども、特に玉水小は美化作業が多く、すごく熱心にする学校で、自分が小学校の時から親は美化作業を良くしていた。今思うと、裏を返せばなんでかと、恐らく余所の学校に比べて作業する場所が多いんですよ。法面だったり。そういう中で人は減っているし、親も減っているし、ましてや前は農業の人がいっぱい、土木関係の方もいらっしゃって。今ももちろんいますけれども、年々そういう方も減ってきて、お勤めの方ばかりになると、なかなか難しい作業も実際出てくるし、学校を綺麗に維持するという意味でもどうなのかなと考えたりもする。自分の地区を見渡してみますと、野部田区は、小学校6年生から下は乳幼児まで20人超えるくらいいるんですけども、3～4年前は2人くらいしかなくて、今高校生になるのかな、その方はずっと1人で役員をしているというようになってきた。今は自分たちは多いけれども、6年後9年後になったら、人はいないぞということになってきて。消防団員とかもないし。となると若い人がこの先いないんだなと。小学校とは別問題で考えることもある。となると地域学校は必要だとはすごく思いますし、ましてや自分の小学校がなくなるというのはすごく寂しいことだということも思うんですけども、結局維持していく、現状子どもを通わせている私が思ったりもするので、少し見方を変えるといいですか、天水も同じ地域じゃないかなと自分は思う。合併して色々問題もあるのかと思う。ただ、今の現状でも問題はないわけではないので、はっきり言って人は減っていくというところで考えて、じゃあどうするのかということ考えたときは、やはりある程度、色々なものを維持していくとなった時は、やはり合併して、合併しても人数は減るといふこの状況もあれだが、それでも合併した方がまだ維持はできるんじゃないかなというふうに考えるし、親とか、地域とか、今まで校区単位だったのが、町という単位でやっていけばいいんじゃないかなと思っています。また何回も熱心に説明会等されていて、逆に自分が無関心だったのが非常にいけなかったなと反省しているところです。

地域の方 署名を取った時の地元の区長です。私は合併に反対ということで署名をしたわけではない。私が知る限りでは、とにかく今話を聞いていると、渡り廊下で繋がるような小学校ということになれば、場所あたりが決められているという感じがしました。私の知る限りでは、(天水では)非常に災害がっております。227年前の島原の肥後迷惑という事件がありました。1万7千人の方が亡くなられて、この天水町でも相当数の方が亡くなっておられます。それから昭和2年に唐人川が決壊いたしまして、その時も災害を受けております。そして一番ひどかったのが昭和32年の大水害がありました。45名の方が亡くなりま

した。今の中学校あたりはものすごい被害を受けました。私が中学校の時、今の天水？（不明瞭）がありますけれども、授業中に水かさが増して、家に帰られないような状態を経験いたしました。それと今のみかん倉庫、選果場がありますが、15～16年前に冠水いたしまして、501の堤防を、水が越すような状態になりました。それからこの間の熊本地震、その時私は玉水小学校に行きました。小学校のグラウンドは避難者の方で一杯でした。横島から来た、大浜から来た。そういうことで、渡り廊下で繋がるようなところであれば、ものすごい被害があると思います。もしも合併するのであれば玉水小学校にもどうぞ。子どもたちの安心安全を考えるならば、そういう選択も忘れないください。以上です。

—拍手—

島崎課長 私はH27年、H28年も教育総務課長をしておりまして、その時の経緯も知っているつもりでおりますが、ただ1つだけお答えさせてください。一体型と申しましたのは、誤解がないように申しますが、教育委員会が理想とするというような言い方をさせていただいたと思います。もう少し説明が足りなかったかなと反省しておりますが、私たちは少なくとも天水中学校に一体型しかだめというような説明はしておりません。これから5年くらいかけてする場合の1つの選択肢としてした場合はそうなります。ただし、よく言っているのが、玉水小学校があります、小天小学校があります、どちらかの小学校に入るのも1つの選択肢です。また公共用地として旧天水中学校の敷地もごさいます。そこに小学校を建てるということも理論的には考えられますので、あくまで地域の皆様方と統合に向けて話をするのであれば、場所の選択にももう少し時間をかけたいということも申し上げておりますので、そのへん誤解がないようにということが1つ。洪水の話が保護者の方々からも出ます。先ほど申したように天水中学校にした場合のメリットもあるしデメリットもありますので、そういうデメリットに対してはどういう対策をとるんだとか、そういうことも含めまして今後話し合いをして、もし天水中学校区3校が一緒の方向で進めるのであれば、そういう組織を作って1つ1つメリット・デメリットを検証しながら、場所選定とかそういうまで決めていきたい。区長さん、ありがとうございました。玉水小を排除しているつもりはございませんので、誤解のないように発言させていただきました。

地域の方 署名活動があった時は、最初から統合はやむを得ないと思っておりました、その当時玉陵小とかの統合のことがありましたので、天水地区もあるだろうなと心構えておりましたので、そうなったら多分中学校と同じところに作るんじゃないかというふうなことを懸念しておりました。先ほど言われましたように、今から20年ほど前に大雨が降りまして、2～3時間くらい降ったかと思いますが、それでも501の東側の中学校の向かい側にあった給食センターまで浸

水して、もう使えないくらい。あれから数年に1回くらい大雨が降ります。そのように今災害の多い時期。だから、これは5年に1回くらいしか降らないよ、色々あるかもしれません。ただ今まで大雨が降って天水中学校の周りが助かっているのは、たまたま潮が引いているときに大雨が降ったとかそういう状況です。だから、いくら排水ポンプがあっても、今の状況では間に合いません。特にこの天水地区は、山も荒れ放題で管理が行き届いていないので、雨が降ったらそのまま流れてきます。もう排水路とか用水路とかも埋まった状態です。だから万が一5年くらいないよと、そういうことは絶対ないんです。雨が降ったら天水の平地が孤立しないように。そういうためには、統合するのであれば、もう中学校はできてしまっているからしょうがないけれども、小学校はせめて玉水小を改築するかして、児童数は減るから教室もあるかもしれないけど、何とか玉水小のところに小学校を統合してほしいという気持ちで、請願に署名しました。どちらにしても天水中のところに、どこに作ろうが小学校はスクールバスですよ。だから、小天小学校のところに作ろうが、どこに作ろうがバスはいるんですよ。どこで作っても一緒なら、それならより安全なところに小学校は統廃合すべきだと思います。そのつもりで署名しました。もうそろそろ場所をそろそろ選定する時期ではないかと思いましたので今日の意見交換に出てきました。

地域の方 ずっとこれまでの経緯を見ていて思ったのですが、色んな方がおっしゃっているように小学校というのは地域のコミュニティセンターの機能は持っている。なおかつ、防災上の拠点にもなるということを見ると、学校再編というのは教育委員会だけが絡む問題ではなくて、行政も絡んでくると思うんですね。そうなってくると、子どもたちのためとは言え、これは地域住民のためにもなると思うので、そうであればこの場になぜ玉名市の行政担当者がいないのかというのが1つ、すごく大きな疑問です。これまでも多分何回も地域の大事な拠点なんだというお話が出てたと思うんですが、これだけ回数を重ねておられるにも関わらず、行政の方がいらっしゃっていない。地域行政を担当されている方、ないしは、市長さんに来てほしいということではないのですが、ある程度こういった地域住民の声を、行政側でくみ取る人が誰もいないというのは大きな問題だと思う。何回も同じような意見が出て、教育委員会としてはそれには回答できないので持ち帰りますとかいうことになっちゃうし、その場でなにがしか具体的な答えができるわけじゃないし、繰り返しのようになります。前回始めてこういう会に参加させていただいた後、(今回)また2回目来ているんですけども、今日は行政の方いらっしゃるのかなと思ったんですけども、いらっしゃらないんですね。そういった意味では教育委員会の方だけに責任追求があるだけで、具体的にまちづくりに関係する行政の方がいらっしゃるべきだと思います。私としてはそういった方からの話をもう少し聞ける場にしていただければいいなあと思います。

島崎課長 ありがとうございます。私の方から少しだけ。少なくとも教育委員会ではありますが、行政の一員であるという自覚は持たせていただいております。それと、防災等につきましても、以前来られたときに触れたかどうかははっきり覚えておりませんが、同じように防災をどうするんだ、洪水で危ないぞという話をさせていただいて、意見交換した時もございます。その中でも、当然私たちも行政の一員ですので、分かる範囲ではお答えを差し上げているつもりです。その時の1つの例が、洪水の時どうするんだと、津波の時はどうするんだというのがあります。私がお答えしたのが、一言一句一緒かどうか分かりませんが、大きく言いますと、津波であれ、大雨であれ、少しのタイムラグと申しますか、少しの余裕がございます。そういう面ではどこにするか決まっているわけではありませんので、もし津波等の危険なところに、皆さんの大方の話し合いの中で決まるとすれば、そういう津波の時にはどうするかというデメリットをなるべく軽減する方法を考えないといけません。その1つの方法が防災教育とか避難訓練とか、そういうのだったり、大雨とかゲリラ豪雨とかタイムラグがない時には、垂直避難というんですけれども、2階、3階に上がるとかですね、そういうのも今後話し合いをしていくべきですねというようなお話をさせていただいたり、避難所としても、今までの経験を基に、こういう災害の時はどこに1次的に避難していただくという防災計画も防災担当課の方で見直しをしていますというようなお答えをさせていただいております。お答えにはなりませんけれども、当然今後皆様方から、話し合いが始まって、まちづくり的な話をしたいということであれば、私たちも丁寧に対応させていただきたいと思いますが、まずは子どもたちの教育の場を担当する教育委員会として、こういう意見交換会をさせていただいていることだけご理解いただければと思います。

地域の方 この統合の話が出て、実際統合した玉陵小学校はどうなのか、見てみようじゃないかということで、3人で訪問したんですが、とにかく素晴らしいということで、スクールバスも7台。そこで思ったのは、耐震構造が立派にできているということですね、昭和56年、玉水小学校は昭和54年ですから、その2年後に新耐震構造ができて、それに従ってできているわけですから、その場合は耐震構造で6、一番大きいのが7なんです。それでも校舎が倒壊しないということです。だから、そういう大地震が来ても、人的被害が甚大なものにならない。地震が来たらどうなるのだろうか、帰りに話し合いをしたんですけど、調べてみると玉水小学校は耐震構造は以前のもので、建築法でいくと、昭和25年にできている。その場合は地震について、震度5までは大丈夫と、震度6は何も書いていながら多分良くないんじゃないかと思えますけど。和が6弱だったから。あんなのが来たらちょっと危ない。それと、玉水小学校はできてからちょうど40年です。小天は8年遅い、小天東の場合は平成に入っ

てから。玉水小（の校舎）は非常に古い。文部科学省の記録を見ると、40年で校舎を建て替えるのが今までの慣例だということです。ただ、これは第二次ベビーブームの時に学校を全国的に作ったから、予算がないとかで、（校舎の寿命を）うんと延ばしなさいと、70年とか80年とか。このまま玉水小でいくんだったら、あと30年、40年（建物の寿命を）延ばしなさいということになるんじゃないかと。それと心配なのは、南海トラフが30年以内に7割から8割の確率でやってくると。これはお願いになりますが、玉水小は少なくとも5年から6年は残すということになりますよね。そうなった場合、今子どもたちが入っている教室だけでも耐震構造をしないとイケないかと思います。あれができたときからクラスが半分になっていますね。それから幼稚園もなくなっているから。使ってないところまでする必要はないかなと。それは分かりませんが、だからそういう耐震構造をしっかりとということ、それと40年経って古いということ。それと子どもはやはりある程度人数が多くないと授業が成り立たないんですね。5人とか6人とか、10人くらいでは。先ほど書いてありました一番大事なコミュニケーションの能力ですね。授業に参加しますと、大体グループ学習でやっておられる。その中でコミュニケーションの能力、そして話し合いの中から創造力というのがありますから、だからある程度（人数が）増えなくてはイケないと思います。玉水がこのままいくと、やがて10人くらいになりますね。先ほど15人くらいがいいんじゃないかという意見がありましたが、もし15人で次の学年が1人だったら複式（学級）になるんですよ。2学年合わせて16人だったら複式学級になるんですよ。担任の先生も1人になるんですよ。小天東小学校は完全複式で、このまえ授業参観させてもらったら、1年と2年が一緒、3年と4年が一緒、5年と6年が一緒。教える先生は1人。だから隣のクラスを先生が教えるときは自習ということですよ。このままずっといつまでも行ったら、小天小も玉水小も複式になって非常に子どもが困るということになります。どのくらい子どもが減っているか小学校の校長先生に尋ねたんですが、玉水小学校で一番多かった時が126人おりました。今の70歳の方ですね。今は2年生が18人ですか。126人が18人に減っているわけです。小天小学校も28年は123人います。新入生は9人なんですよ。だからそういうことも頭にいれておかなければならない。小天東は来年は新入生は0。その次は1名。第1ベビーブームの時は44人いる。学校全体で250人いた。今20人、来年が13人。その次が12人。学校を残すことは大事ですが、子どもがいなくなっている、子どもがよい教育を受けられない。65歳以上が増えて子どもがいない現状をしっかりと考えていかなければいかんかなと思う。

地域の方 耐震の話が出ましたが、教育委員会から耐震設計、診断と耐震改修を受注しました。玉水小学校は既に耐震改修は終わっております。おっしゃられるとおり昭和56年前に建てられていますので、俗に言う旧耐震です。それに関しては文科省の方針に基づいて、市の予算で各建築事務所に発注して工事も完了して

います。検査も完了してそれ相当の体力があるとなっておりますので、本日は行政が10名、参加者が50名ほどおられますので、大きな勘違いをしてもらうと困りますので一言申し上げておきます。

—拍手—

そのため、耐震でけして危ないというわけではございません。ただ、文科省は現在長寿命化といって90年学校を持たせたいという話もあって、耐震改修が終わっている建物は、よっぽどうまくやらないと建て替えというのはできなくなっているのが現実です。

まず規模適正化についてだが、なんに対して規模が適正で、どういう配置をするということでしょうか。

島崎課長 玉名市が考えております規模適正化は、文科省の大きな方針に沿ったものでもございます。その中で望まれる学校規模・学級規模というのを文科省が示しておりまして、1学年複数学級あった方がいいというようなことが基本になっているようです。玉名市としても基本的には1学年複数学級が望ましいということに基本を置いています。それともう1つは、学校規模適正化計画ができた時には、やはり合併という大きな変化期がありましたので、今までの中学校区、天水であれば天水町時代の1つの大きなコミュニティだろうということで、市では玉中を除く5つの中学校にそれぞれ1つの小学校とすることによって、1学年複数学級が可能であるというような形で基本計画を策定されたところです。ただし、先ほど事務局から説明しましたが、H36年の推計でいきますと、天水地域は6学年の内、残念ながら今のままの人口動態であれば3学年は1学級になってしまう。これも意見交換会で説明しているところだが、天水中学校区については、必ずしも1学年2学級以上に拘るのか、あるいは大きな天水という1つの歴史があるので、それを考えた場合にはやはり、天水という1つの括りの方をまずは大事にするべきではなかろうかと。実際は1学年複数学級ということは達成はできませんが、このように大きな旧天水町という括りの中で話をさせていただき、教育委員会の考え方を述べさせていただいているところです。

地域の方 私は統合した方がいいと思います。一步踏み出して、まずは統合するというところで考えて、天水町の子どもたちが成人して、小学校から中学校、高校と上がっていくが、ある程度切磋琢磨していないと、今から地域に根ざしてというか地域に残る子どもたちがどのくらいいるか分からないが、やはり九州に出て、関西、関東に出て、ひょっとしたら世界に出て行くような人間が出てくるかもしれない。そういう礎を作っていく上では、見聞を広めて、色んな人間がいて、どういうコミュニケーションを取って、日本国を背負っていくような人間を作っていくのが、私は教育だと思っているので、そのためにはある程度人間が寄

って、2学級も半分しかできないだろうが、ぜひ進めて行った方がいいんじゃないかなというふうに思いました。

島崎課長 ありがとうございます。

地域の方 いつもここにきて思うのだが、片方の意見が長すぎる。私は多くの意見を聞いてほしいなと思っている。控えてほしいなと思うこともある。皆さんは合併をしてほしいという意見が多いんじゃないかなと思って聞いておりました。これは合併しないとやっていけないと思っていらっしゃるのは間違いないと私は思って聞いておりました。そして、さあどこに作るか、どうしたらいいか、やはり天水中の近くなのか、玉水小の近くなのか、または小天東でもいいんじゃないか。上の方は安全じゃないか。となってくると問題もあると思います。だから、ここだったらこういうメリットがあるよ、ここだったらこういうデメリットがあるよとか、そういうのを調べて検証して出してもらって。ここだったらこういうメリットがあるからぜひここに作りましょうと。じゃないと、町小にしてもどのにしても、全部（小学校があるのは）平地ですよ。山に作っているところはありません。じゃあなぜ平地なのかと考えると、やはり交通の便だとか、集まりやすいとか、そういうのが全てであると思います。何年ぶりにくるか分からない洪水、そういうのも必要でしょう。でも今の子どもたちが通学しやすいところ、多くの人が集まりやすいところ、そういうのを考えた上で、中学校とも連携をしやすいところとか、メリット・デメリットを考えた上で、ここだったらこうですよ、ここだったらだめですよというのを出していただいた方が、聞く人にとってはありがたいと思う。なるべく多くの人の意見を聞いてほしい。一部の人の意見じゃだめだと思う。

島崎課長 ありがとうございます。統合に向けて具体的に話し合いをしようじゃないかとなった時に、玉陵の例を申しますと、それぞれの地域の代表者の方々を含めて1つの学校づくり委員会という組織を作ります。その中で、ああでもない、こうでもないと色々なことについて話し合いをしていただきます。当然、自分はこちらがいいと思うといった多種多様な意見があると思いますので、それをこういう多い人数の中で地域毎に入って行ったとしてもなかなかまとまりがつかないのも現実です。最初に申しましたが、大きな方向性の大方の同意が得られたら、次の段階としては委員会組織を作って、学校の位置だとか、制服だとか、スクールバスのバス停だとか、そういうことを代表者の方々に1つ1つ解決していただくという手順は考えているところです。

地域の方 この間の小天の説明会は仕事で参加できなかったため今日参加します。大事な子作りの話が全然出ていませんね。教育委員会の方はどう考えておられるのか。つい1週間くらい前にNHKで放送があっていました。奈良県だったか、名字が3つしかないそうです。そこは人口が増えているそうです。女の子も男の

子ども高校を出て地元に戻って来て、不思議なことに子どもの同級生が少ないと、「A子ちゃん、あなたのところは間隔が空いているから同級生が少ないから1人生んでよ」と、そういう放送があったんですよ。先ほど行政の人が参加していないという話があったが、ぜひ教育委員会も人口を増やすにはどうしたらいいのかということをもっと真剣に考えて、子どもが減るから小学校を統合するというということは、知恵も何もいらぬ。私はそういう風に考えている。やはり学校は歴史がある。地域と密着した何かがあるんだな。一番感心したのは、小天東小の運動会は子どもたちの運動会じゃなくて、お父さん、お母さん、お兄ちゃん、おじいちゃんの運動会の様相を呈しているんですよ。それくらい小学校は地域に密着したやり方でやっている。ぜひ一つ、もう一遍行政の人を連れてきて、玉名市は人口を増やすにはどうしたらいいのかという考えを持っているかをぜひ意見を發表して統合の話をしてほしいと考えている。それからね、子どもが少なければ合同授業をすればいいんですよ。算数の時間は玉水小学校でやりましょうと、体育の時間は少ないから合同で一緒にすればいいじゃないですか。やり方は色々あるんです。

—拍手—

地域の方 さっき適正規模とか適正配置というのがありましたが、平成27年1月27日文部科学省が手引きを出している。その中で第1章、手引きの位置づけの中にこういう文言がある。基本的な考え方、教育的な観点からです。それから地域コミュニティの核としての〇〇への配慮？（不明瞭）これは私が言っていることなんですけど。それから、これはあくまでも標準のことを言っています。その中でやっぱり地域の人たちが（学校は）必要だね、私がさっき言った天水だけ玉名だけじゃなくて、玉名郡の話の中で、やっぱり旧村が集まって町になった時に、旧村には小学校が残ってて、それはやっぱり地元の人たちが色々な意味で自分たちの地域を大切にすることも大切、そういう意味で（学校が）残っています。この中で文部科学省が言っているのが、小規模校を存続させる場合の教育への充実ということ、色々な話がありましたけれども、大規模校は大規模校なりにメリットもデメリットもあるでしょう。それから小規模校は小規模校なりにメリットもデメリットもあるでしょう。じゃあその中で少ない人数が不利かということそうじゃない。小天東の話もあっているけれども、小天東は少ない人数で？（不明瞭）あれだけ頑張って立派な人材を輩出しているじゃないですか。村もまとまっているじゃないですか。そういったのをしっかり？（不明瞭）しなきゃいかんと思うんですよ。前に教育委員会の人たちがいる。？（不明瞭）じゃあ私がさっき言った次の段階の玉南校区、有明校区はなんで進まないのかの答えを文書で出してください。それとみんなが望んでいるんだったら先にそれを進めて、やっぱり私は物事を進める時のPDCA。これを確認して、本当に良かったかどうかの検証をやっていかなきゃいかんと思う。それを見ても十分、私は大丈夫だと思います。

島崎課長 今のご意見について、文章でというのには、今日は意見交換会ですので、そういうことは（しないと）ご理解いただきたいと思います。1つだけお答えできるのは、有明とかそういうのをなんで先に（しないのか）というのではなくて、やはり小天東の複式学級ということもありまして、まずは天水ということで考えているのでご理解ください。

地域の方 以前玉水小学校のPTAをしていましたが、その時に小中一貫という言葉は何回もそのころ聞いて、小中一貫というのはメリットを言えば、お姉さん達との交流があるというような、子どもが小学校1年生の時に6年生のお姉さんに手を引っ張られて遠足に行くと。6年間でなくて9年間になるような説明だった。そのころ小天東小学校の保護者の人たちは絶対反対と。ゆくゆくは、玉水小学校も反対意見はありますが、結局は子どもを考えると、やはり多い方がいいんですね。なら各授業を玉水小学校でする、なら体育の授業は小天でする、そういう時の移動手段なんかがまた大変ですもんね。自分たちは芦北とかに4年生5年生で集団合宿というのにも参加してきたが、今から先は多分、子どもたちが中学校になった時に、最初は人見知り？（不明瞭）があるし、そういうのを解消するには小中一貫という小学校と中学校が連携して同じ敷地内に建つのは良いことだなとは思った。署名運動の時に、自分も反省しているが気軽に書いている。それは小学校は母校でもあるのでサインはしたというのがある。しかしやはり今から先は未就学児の保護者の意見の方を余計に聞いてもらった方がいいのかなと。うちももうすぐ孫ができるのだが、じゃあ寂しい小学校にやるよりか楽しい小学校にやりたいと思う。それはみんな一緒だと思う。地域に密着したと言われるが、小学校の役員さんを決める時に大変。なかなか決まらないし、なかなかそういう人も出てこないし。だから現PTA役員さんたちも大変苦労されていると思う。前は農家も多かった、そして土木関係の人も多かったからゴミとかも土木関係の人が持って行ってってくれていた。今は違う。そういうことももう考えなくてはならない。玉水小学校は高台でいいが、要するに相当木が多い。PTA活動ではもう伐採なんかできないくらい大きい。その予算も市からもらっても大変。これは、私たちの年代より上の人の意見よりも今の保護者の意見を聞いてそっちの方を大事にしてほしいというのが実感です。

柳井指導主事 教育委員会に来る前は小学校で教職に就いていた。玉名市の進めている小中一貫教育は、小学校の先生はどうしても小学校6年生までの姿をイメージして教育活動を行う。中学校の先生は中学校の3年間の成長を見ていくことがどうしても多い。小学校に入学してから中学校を卒業するまで義務教育9年間でどんな子に育てていくかということ、小学校の先生も中学校の先生もお互いに共有して9年間の育ちを意識しながら、小学校の先生は小学校の子どもたちを育てていく。中学校でこんなふうな勉強をしていくよとか、3年経ったら高校入

学が控えている、そういうことも見据えて1年生の時から授業をしていく。中学校の先生たちは小学校でこんな授業をしているとか、授業のスタイルも違うので、小学校の子どもたちが中学校に入った時にとってもギャップを感じる。中学校の勉強はこんなに早いのかとか、体育の授業とかも専門の先生が教えられるので全然違う。そこに多くの子どもたちが戸惑いを持ったり、そしてその時に、やっぱり学校行きたくないなあとか登校渋りが起きたりといった中1ギャップといった大きな段差を子どもたちは感じて学校になじめないといった課題もたくさんあった。そういう無くせる段差はなくして、子どもたちが小学校から中学校に繋がって、スムーズに中学校生活に慣れていくようにするために、例えば天水中校区であれば、天水中と3つの小学校の先生たちが一緒に授業を見合って学び合うような機会をたくさん作って、9年間でどんな子どもたちを育てたいのか、天水の子どもたちにこんな子どもに育ててほしいという「子ども像」を共有して先生方が日々授業をするという取組みを、平成25年度から始めて5年～6年くらい経っている。小中一貫教育の考え方を少しずつ浸透させながら玉名市では各中学校区単位ですべて取組みを進めているところだ。その成果は少しずつ子どもたちにも現れていて、ずっとアンケートを取っているが、小学校6年生を卒業する前と、中学校に入学して3カ月経った7月にアンケートを取る。中1アンケートの今年の方で「中学校に入って戸惑ったこと、不安に思ったことは何ですか」という記述式の設問があったが、その書き込みの数が年々減っていった。そして今年はそこがぐっと減っている。やはり5～6年取組み続けているので、小中一貫教育の考え方が先生たちにもしっくり浸透してきているし、そのことが色んな教育活動に反映されて、小学生が中学生の様子を知ること、例えば今盛んに挨拶運動を中学生がしているが、中学生が朝から母校に来て挨拶運動をする。年に2～3回あっているが、そういうことにずっと取り組んでいくことで、お互いを知って不安を少しでも少なくして中学校に繋いでいく、それがアンケート結果に出ているのかなと私たちも喜んでいるところだ。小中一貫教育は日本の国としても色んなところで取組みが始まっていて、その成果も認められていて、玉名市でもこれからも進めていきたいと考えている。玉陵小中は今年から校舎が繋がっているような状態になったが、他の小中学校は天水中校区のように分離型といって、小学校中学校に距離があるのでしょっちゅう一緒にはできないが、色んな情報を交換しながら、小中で揃えられるところは揃えて、教職員も意識を1つに持って子どもたちの教育にあたっているところだ。

地域の方 今小中一貫教育と小中一貫校の違いについて説明をいただいた。天水中校区は小中一貫教育、玉水小、小天小、小天東小の3つの小学校と天水中がそれぞれの場所でそれぞれの役割を果たしながら9年間の教育を行っていて、非常に良いことだと私も思っている。先ほどから眺めていると、統合はやはりこれは小中一貫校を、小学校も中学校も同じ場所に作ろうかと。課長はそうじゃないよと言うけれども、大体の人はそういう風に思って聞いているんじゃないかな

と思っている。そうすると、やはり、自分はその時は賛成したがやっぱり反対、賛成反対か、これは非常にいいことじゃない。非常にいいことじゃないですね。こういうことは目に見えないけれども歪みを生んでいくんですよ。(地域を)分断させていくんですよ。色んなところで。今度会えば挨拶もしないかもしれない。非常に困ったことになっていくんですよ。これを目の当たりにしたのが玉陵小学校を作る時ですよ。学校づくり委員会を最初に立ち上げたんですよ。学校づくり委員会の方はいい学校を作らなんと一生懸命された。それに反対する人たちは、町を二分するくらい色んな意見が飛び交った。学校づくり委員会と文教厚生委員会の人たちは何回も話し合いをした。途中喧嘩腰だった。それくらい地域を二分させるような小学校の統廃合なんですよ。非常に難しいものを含んでいる。とても嫌な目に合う人もいる。子どもたちには見せられないような聞かされないようなやり方ですよ。今回小天東小の方が、合併してもいいよと、よかなら合併してくれないかというのは自然の摂理、自然だと思う。だから、玉東も南関も他のところはまだまだその域まで達していないので、玉陵地域の、例えば月瀬小学校の10人とか、石貫の何人とか三ツ川の何人とか、そういうのが今の小天東なんですよ。そういうふうに自然と統廃合したいとやってくるんですよ。ところが無理やりに、玉名小学校、梅林小学校、小田小学校、色んなものをいっぺんにしたもんだから、非常に歪みが出ている。今でも出ている。だから自然に子どもたちが減っていけば、今統廃合反対している人たちも、いやあー賛成してよか学校を作ってほしいなとか、子どもたちのために作ってほしいなと。先ほどから教育論が出ていますよね。多い方がメリットがある、少ない方がメリットがある、デメリットがある。色んなところで叫ばれているが、これはどっちがいいかは分からない。正直言って。成績は集団で教育を受けるよりも個別の家庭教師ですよ。お金がかかるから、どっちかという。教育に対してはやはり千差万別、十人十色なので、そのへんは何とも言えません。ただ、統廃合は自然の流れなんですよ。だからあまり町を分断するようなやり方は、みんながいがみ合うようなやり方は、子どもたちには見せられない。

—拍手—

地域の方 先ほどから色んな方の意見を聞いていると、天水はすごく危険な場所なんだなと聞こえたんですが。私の地元は、それこそ富士山が噴火しても東海大地震が来てもハザードマップで真っ赤に染まってまず助からないようなところだが、海沿いにももちろん小学校はあるし、その分対策とか、避難訓練をしっかりとして迅速に保護者と子どものやり取りができるような連絡網とか、防災頭巾を1人1個学校に置いてあったりなど、ものすごく対策をしっかりとって、みんな安心して学校に行っていた。玉水小にお邪魔する機会が増えたのだが、建物の中も使わない教室は内装や備品がそのままだったり、それこそ地震があった時とかに大丈夫かなと心配になるような見た目。先ほど保護者の人数も減っ

てきたら環境整備も力が足りなくなってくるというような話を聞いて、通学路の安全面でも人数が減ると登校班とかもなくなったりしてくるのかなとか。今までの熊本地震とかは幸いにも学校がある時間帯に地震がなかったのも、そこまで心配しなかったが、子どもたちだけで通学とか下校の途中何かあった時に、天水で一番怖いのは崖崩れとか用水路がゲリラ豪雨であふれて水浸しとかが多いと思う。子どもの人数が減ってきて、登下校に子どもの人数が2～3人の時に子どもだけで対処できるのかなと心配になる。天水中が危険な場所だと今伺ったが、それこそ中学校が危険なら新しい校舎を近くに作って、垂直避難とかで中学生までしっかり安全確保できるような新しい施設を考えていただけないかなと思う。あと、反対賛成でずっと話が続いているが、いつかどっちなかの小学校が自然消滅してでも合併はいつかはしなければいけないというのは皆さん思っていると思うので、それこそ学校づくり委員会のようなものを玉陵小みたいに早く立ち上げていただいて、いつ合併するとか、どこに作るとかを、そこからどんどん話し合いをしていっていただいた方が、賛成反対で町の雰囲気が悪くなるということも減るだろうし、もっと健全に話し合いをして盛り上がっていった方が、いい学校を作っていけるんじゃないかなと思うのだが。

島崎課長 先ほど地域を分断するのかというようなお話をいただきましたが、最初に申し上げましたように、こういう意見交換会を行う中で、それぞれの方々が思っておられることとお話いただいて、教育委員会の話しも聞いていただいた上で、大方という言い方をしたが、大方の人が合併を望んでいないからもうしばらく待ってくれというような大方もあるだろうし、今言っていたように大方前向きに考えようかという、大方どっちの方向を向いておられるかということを知りたいということ、その大方のご意見に基づいて具体的に何かを踏み出すべきだろうということで、ここで誰が反対して何対何でどっちがどうというような決め方をするつもりは毛頭ない。お分かりいただいているとは思いますが、今日のような意見交換さえしないというふうになると、皆さんがどのように考えておられるかが分からないので、今日のご意見はそれぞれの方々のご意見として、私たちも参考になりました。時間もかなり過ぎておりますので、では最初の小天東が小天にということをご報告に來ましたと申し上げたが、小天の方からも小天東の方からも、こういう動きがあるということは同じ天水町ということだからぜひ伝えておいてくれということでしたので、小天東が小天と平成32年4月に統合するということは地域の方々も大方ご同意を得ておりますので、教育委員会としては小天小と小天東小の代表者の方々とそれに向けて努力をしてまいりたいと思います。それと今日のお話で色々なご意見を伺いましたが、やはりこういう話し合いをしないと次に進めませんので、話し合いを始めた方がいいのかということ、この後また同じことをしても同じになると思うんですけども、今後どうしたらいいのか一言だけでもご意見がいただければ助かります。

地域の方 複式が増えると先生方の負担も大きいのではないかなということと、学校運営上の先生方の役割も非常に多く、負担軽減ということでは、先生方にストレスを与え現場を切り盛りしていただいている状況だと思うんですね、大きい学校であれば先生方の役割も分担できるし、子どもたちへの密な対応というのもやりやすいのかなと非常に感じているところだ。小さい学校は少ない人数で学校運営上やっていくことが非常に多く、先生方の負担も多く、病気をされている先生方も非常に多いという現状を考えると、今後子どもたちの環境を整えていく上でも、少しでも早く合併して子どもたちのよりよい環境作りをしていけたらいいのではないかなと思う。私は今小学生や中学生の子どもはいないが、今後のことを考えていくのであれば若いお母さんやお父さんたちが学校と連携を取りながらよりよい教育環境を作っていくということを望んでいるところだ。

地域の方 平成36年くらいを目標に3校統合して早急に取り組むべきだと、そういう話し合いを始めるべきだと。そして場所は玉水小学校が一番いいんじゃないかなと思っている。というのは、2つのファーストがあると思う。1つは子どもファースト。やはり教育環境が一番。時間的にも教育体制も含めて早急に合併をすると。もう1つは、命ファースト。やはり命というものは対策では超えられないものがある。ソフトの対応策は色々あるが、天水中学校はハザードマップで赤ですね。そういうところに作るべきじゃない。行政的にはそれはおかしいんじゃないか。私は孫が一番安全なところに行って勉強していると、祖父としてはそれが一番ありがたいことだなと思う。

地域の方 若い人の意見を聞いて、特に子どもを持った人たちの意見を聞いて早く結論を出していただきたいと思う。築地の方などはどんどん家が建っている。なんで家を若い人が無理して建てるのと聞いてみると、やはり大きな築山小学校に子どもをやりたいと、玉中に。だから三ツ川とか石貫とか自然とか文化があつていいんじゃないかなと思うが、長洲あたりからこちらに縁もない人が（家を）建てるんですね。学校環境ということですから。私も資料の児童数の推移を見て愕然としています。幼少人口が玉水は23人と思っていたが20人ですね。今、2040年問題というのが大きな問題となっているが、生産年齢人口が2025年から2040年までの間に16.6%減るということで国が国民が心配することですけども、玉水校区は20%減るんですね。生産年齢人口が。私は2040年くらいに18人くらいになるのかなと思って来たら、すでにもう小1が18人。もっともっと細っていくわけですね。そういった諸々の学校環境とか保護者のサポートとか話が出ていたが、私は天水中学校の活力も心配している。我々の時代と違い環境も随分保てなくなってきた。100人保てなくなってきた？（不明瞭）教育委員会にお願いしたいが、若い人の意見を主に聞いて早く結論を出してほしいと思う。お願いします。

地域の方 余所から来てここらへんも詳しくないのであれやこれや言える立場ではないかもしれないが、このまま玉水小に通わせるだろうという子を持つ親の意見としては、玉水小学校の側には幼稚園もあるので、仮に統合するとしたら、私としては玉水小学校で統合してほしいと思う。理由は幼稚園もあって、そこに小中一貫校ができたとして、資料にもあったが、人数が少ないと教師も少ないので、教師にも合う合わないがあって子どもも悩みを相談できないじゃないかと書いてあって、だから統合したいと書いてあったが、玉水小で統合すれば幼稚園、小学校、中学校とあるので9年間色んな先生に見てもらえて悩みも相談できてとてもいいことだと思うので、私としては玉水小を残してほしいと思う。

島崎課長 ありがとうございます。こういう意見交換会を通じまして、統合ありきではけしてございません。色々な意見を出して、どうしたらいいかと話し合いをする場は必要だと教育委員会としては必要だと考えている。統合ありきでいついつを目指して統合に向けて話し合いをするという前提ではなくて、統合をするんだったらこういうふうなのがいいんじゃないだろうかというような話し合いについては、ぜひ教育委員会としても取り組みたいとは思っているところです。そういう意味合いでは先ほど子どもを持った親というような若い人という話しも出ましたが、PTA という大きな組織もございますので、できれば新年度になってから、できればPTA なり、あるいは地域の方々にも入っていただいた中で意見交換を含めて、学校づくり委員会、何時を目標に作りますというのではなくて、どうあるべきかを話し合う機会を作らせていただければと思っています。そのへんについてはいかがでしょうか。大方そういうことでいいよということであれば、何らかの組織を提案させていただきたいと思いますが、今日反対の方もこういう話し合いもする必要ないと、地域を分断するぞというようなお叱りも受けましたけれども、もしそういう意見が多ければ教育委員会としてはそれを無視してそういった組織を作ることはできませんが、全員とは申しませんし大方という言葉を使わせていただきますけれども、何人かの方々からもう話し合いをしたらというようなご意見もいただいておりますので、(統合)ありきではない、何らかの組織を作らせていただきたいなとも思っております。その点についてはいかがでしょうか。

—拍手—

今日いただきました意見についてはまとめまして行政内でも協議をしたいと思っています。少なくとも(統合)ありきではない組織について検討させていただいて、年度末になりますのでPTA も新しい体制になるかと思っています。新しい年度で、皆様方あるいは区長さん方とこういう機会が必要であれば設けますけれども、まずは区長さんなりPTA なりにそのような提案をさせていただけたらと思っています。それでご了解いただいたということで今日は終わらせていただいております。

—拍手—

ありがとうございます。こういう話をしたいということがありましたら、各グループで話を聞きたい、玉陵の例を聞きたいというようなことがありましたら教育総務課の方まで連絡いただきますと出て参ることも構いません。今日は大幅に時間を過ぎてしまい、進行が悪かったのかもしれませんが。申し訳ありません。たくさんのご意見ありがとうございました。これを持ちまして閉じさせていただきます。ありがとうございました。

—拍手—

21時37分終了